

【学校教育目標】「感謝の心をもち、自ら学び、たくましく生きる子供の育成」



学校だより 堂崎つ子

第 21 号

令和 7 年 12 月 9 日
南島原市立堂崎小学校
校長 末吉 優

あっという間に12月に入り、2025年も残すところ3週間となりました。12月22日は「冬至」です。寒さは厳しくなりますが、早寝・早起き・朝ご飯を欠かさず、元気に登校してほしいと願います。ところで、市内ではインフルエンザが流行しています。学校では、換気、手洗い・うがいの励行、必要に応じた適切なマスクの着用等を行い、感染予防に努めています。体調を崩すことがないように健康管理の方をお願いします。

持久走大会、そして お芋タイム 【12月2日（火）】

スタートラインを勢いよく飛び出した子供たちは、心地よい太陽の光を浴びながら上り坂を息を切らして駆け抜けました。沿道には「頑張れー、ファイトー」などの声援と大きな拍手。折り返し地点で折り返すと、今度は下り坂。思っている以上のスピードが出ます。ペース配分が難しいのですが、家族や地域の方々の力強い応援により、「底力」が發揮されました。その様子は、子供たちの表情に表れていました。また、多くの好記録が生まれました。



持久走大会に先立ちまして、本部役員や有志の皆様には午前中から家庭科室でふかし芋を作っていただきました。家庭科室から漂うおいしさなどにおい。休み時間にのぞき込む子供もいて、午後の持久走大会をがんばろうという気持ちがわいたことでしょう。

走り終えた子供たちは、ふかし芋をおいしそうにほおばっていた姿が印象的でした。「甘かったです。」「2個食べました。」などの感想がありました。保護者の皆様には、コースの安全管理にも御協力いただき、感謝申し上げます。

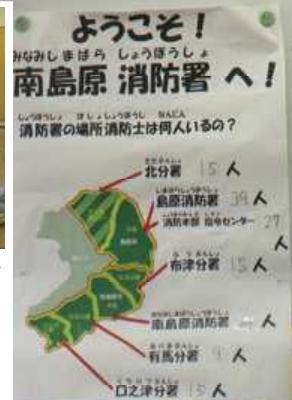
入賞者の紹介 入賞おめでとうございます！（敬称略）

< 校内持久走大会 入賞者 >

すべての子供たちが自分の限界に挑戦しました。粘り強く、最後までよく頑張りました。きついことに挑戦し、乗り越えた本人にしか分からない「気持ちよさ、すがすがしさ」を味わったのではないか。拍手を送ります。

	男 子			女 子		
	1位	2位	3位	1位	2位	3位
1 年	木村	平石	苑田	柳谷	中村	松永
2 年	小嶺	松尾	中川	田中	松永	金子
3 年	松尾	松尾	平石	石橋	徳嶋	草野
4 年	古江	白石	坂上	中川	苑田	松尾
5 年	金子	荒木	松永	小島	本多	荒木
6 年	坂上	金子	神崎	松尾	末吉	松尾

3年生 南島原消防署見学 【11月28日（金）】



消防訓練の体験や救急車や消防車の見学を行い、署員の方から分かりやすく説明をいただいたそうです。堂崎小学校出身の署員の方もいらっしゃり、より身近なキャリア教育の一環となりました。

12月に入り、寒くなるとともに、空気もより一層乾燥します。火災予防に気を付けたいものです。



これまで実施してきた全校集会の講話の中で、「どんなことがいじめになるのか」、「いじめは絶対に行ってはいけない」ということについて確認してきた。また、「すてきな学校」、つまり生活しやすい学校、集中して勉強できる学校にするには、どのような行動をするべきか、どのような言葉遣いがよいのか、みんなに考えてもらってきた。その後どうだったか。

今日は、「スマホやタブレット、ゲームに時間をかけない。」という話をする。(どういうことか分かりますか?)

「スマホやタブレット、ゲームに時間をとられる。時間をかけてしまう。」ということは、家族や周りの人と本来かわすべき会話がなくなり、自分の思いを言葉で表現することができなくなってしまうということ。そういった人が驚くほど増えている。また、いわゆる「ちくちく言葉」を使ってしまう人が多いそうだ。(私自身、決して使いたくない言葉のため、敢えて例は挙げないが……) 皆さんはどうだろうか?



本来、脳がしっかりと判断して、「ちくちく言葉」使ってはいけないという命令を出すそうだが、スマホやタブレット、ゲームに時間をかけている人は、脳をゆっくり休めたり、しっかりと睡眠をとったりすることができないので、つい、「ちくちく言葉」を使うそうだ。また、イライラして、怒りっぽくなり、無意識のうちに手や足で相手を傷つけるようになる。怖いことである。皆さんの中には、そういう人はいませんか?

今日は、いじめや差別を許さない、行わないということを今一度確認するため、「すてきな心」を皆さん自身が育てるため、そして、自分や周りの人を大切にする人権学習を行うために、8名の人権擁護委員の皆さんをお見えである。各クラスで決めた「なかよし宣言」の発表、「堂小ひまわり宣言」の確認もある。97名全員で、一緒に人権について学習を深めてもらいたい。そして、本気で「すてきな学校づくり」に参加していきましょう。 < 校長からの話(抜粋) >

人権擁護委員8名の方からは、「ぼくの気持ち、きみの気持ち」を朗読していただきました。

シバ夫は心のやさしい元気な男の子。シバ夫の悩みは、同じクラスのブル太郎たちがシバ夫をからかったり、意地悪をしたりすること。クラスのみんなもブル太郎たちに意地悪されるのが怖くて、止めることができない。遠足の日、シバ夫とブル太郎はつかみ合いのケンカになり、お互いの体が入れ替わってしまった。そして、そのままお互いの家に帰ることに…。

お互いの身体が入れ替わり、実際に相手の立場に立つことで、相手の気持ちを理解し、自分の行動を見つめなおすことの大切さに気づかせてくれるストーリーでした。体が入れ替わることは実際にはありませんが、相手の立場に立って考えられるようになるとよいことが分かったのではないかと思いました。人権擁護委員の方からは、「困った時は一人で抱え込まずに、友達、家族、先生などに相談してほしい。身近な人に相談しにくい場合は人権まもるくんについている電話番号に電話するのも良いと話されました。

